

# 細井廃寺

— 店舗の建設に伴う発掘調査報告 (HIT2022-1) —

2023.10.31 富田林市教育委員会

はじめに (図1・2)

周知の埋蔵文化財包蔵地 (遺跡) としての細井廃寺は、錦織地区の石川西岸の台地上に位置する複合遺跡である。富田林市史には、縄文・弥生遺跡としての「原田・細井遺跡」と古代の「細井廃寺」に分かれて掲載されているが、今日の細井廃寺は市史記載の両遺跡が一体化したものとと言える。

「原田・細井遺跡」は1971年に実施された分布調査で発見され、縄文時代から弥生時代にかけての石器と弥生時代中期の土器が、市道に沿って南北に細長く分布する。「細井廃寺」は古くから瓦の出土が知られ、分布調査においても広い範囲で瓦の分布が確認された。1984年には段丘崖に近い市道東側住宅地で大阪府教育委員会による「錦織細井廃寺」の本調査が実施され、寺院遺構は検出されなかったものの、複数棟の掘立柱建物と7世紀後半から8世紀初頭にかけての大量の瓦・埴が出土した。土器類は少ないものの、6世紀後半の須恵器、8世紀後半の黒色土器・土師器が見ら

れた。

今回の本調査に先立ち2021年11月24日から12月3日にかけて、開発地全域を対象に事前調査を実施し、計36箇所にてトレンチを設定した。その結果、開発地の東部で遺構・遺物の存在が確認されたことから、細井廃寺の遺跡範囲を開発地全域に広げることになった。本調査は、2022年9月12日から11月10日にかけて実施し、建物建設予定地のうち遺構・遺物を検出した3箇所を結び、L字状の調査区を設定した。なお、壁面にまたがる土坑の存在から、調査区のL字内角南側を12m四方で拡張を行った。

基本層序 (図3)

基本層序は、現耕作土層 (表土)・中世耕作土層・中世包含層 (黒褐色粘質土)・ベース層 (黄灰色粘質土)・礫層である。古墳時代後期から奈良時代にかけての遺構埋土と同質の包含層は確認できない。

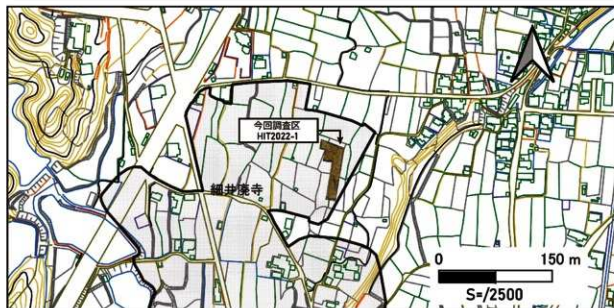


図1 位置図

図2 調査区全景

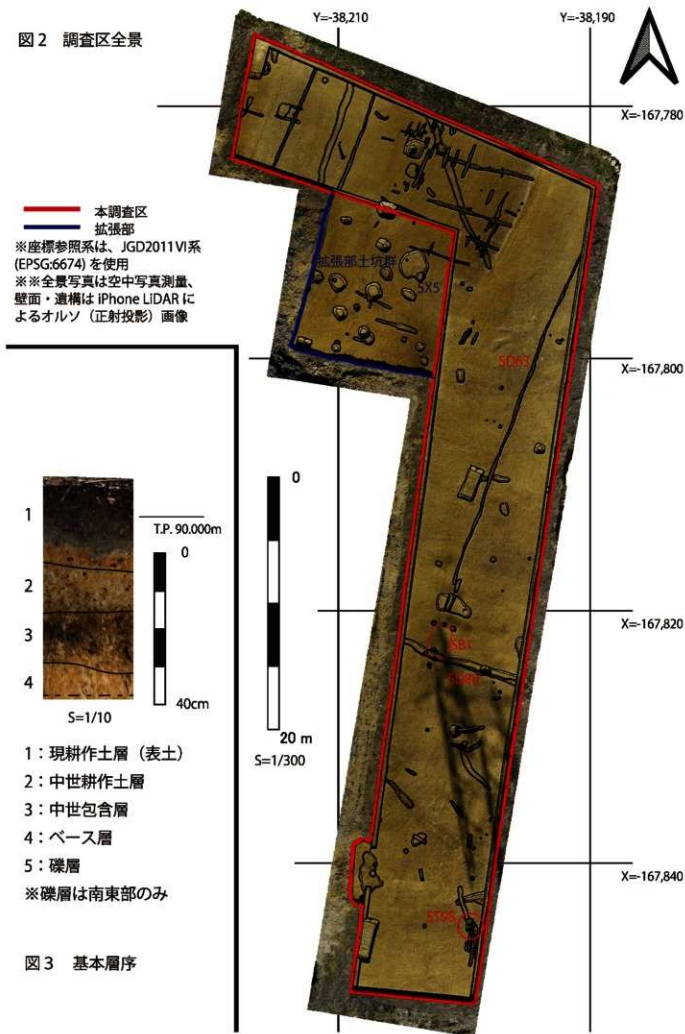
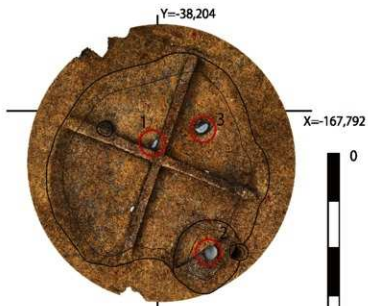


図3 基本層序

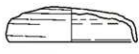


出土状況オルソ画像・完掘時平面図  
(S=1/40)

図4 拡張部 SX 5



1



2

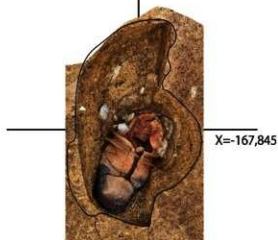


3

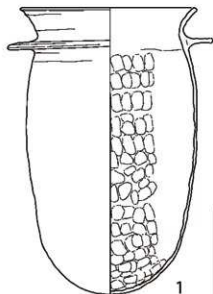


出土遺物 (S=1/4)

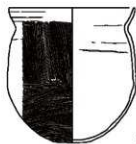
Y=-38,199.5



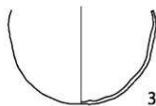
出土状況オルソ画像・完掘時平面図  
(S=1/20)



1



2



3



出土状況西側側面オルソ画像  
(S=1/10、北西から)

出土遺物 (S=1/5)

図5 本調査区 ST98

## 遺構 (図2・4・5)

遺構は大きく分けて、鎌倉時代・奈良時代前期・古墳時代後期の3時期に分けられる。

鎌倉時代の遺構は、調査区全域で検出された溝である。大半は耕作に伴う素掘り溝であるが、調査区長辺を東西に貫くSD80は現在の区画溝の前身であろう。また、調査区北東に長く伸びるSD63も区画溝として機能した可能性もある。SD63の南端すぐ南に、SD63と同じ方向を向いた6基の柱穴からなる小規模な掘立柱建物SB1が存在する。遺物は出土していないが、南辺の柱穴3基がSD80に切られていることから、SD80に先行すると考えられる。概ね現在の耕地区画と溝方向が一致しており、鎌倉時代に調査区全域が削平を受け耕地化したものと考えられる。

奈良時代の遺構は、土器棺墓ST98および拡張部周辺で検出した土坑群である。

土器棺墓ST98(図5)は、砲弾型土釜1を棺身として、土師器甕2・3を蓋として用いた埋葬である。甕がやや下方に設置されており、甕の周囲に礫が枠状に配置されている。土釜内部の土を持ち帰り洗浄を行ったが、内部で遺体や副葬品は確認出来なかった。

拡張部の土坑群は12基以上存在するが、基本的に遺物が少なく、2基で土師器甕が出土したにとどまる。

古墳時代の遺構は、拡張部SX5(図4)のみである。直径2.3m深さ0.12mのやや歪な円形の竪穴状遺構であるが、炉跡や周壁溝は確認できない。須恵器坏は6世紀後半のもので、坏蓋2と坏身3は嵌合可能である。

## 小結

今回の調査で検出した拡張部周辺の土坑群は、遺物が少なく、配置にも規則性は見られない。近隣の新家遺跡では羽曳野丘陵東側の段丘面で多数の土墳墓が検出されている。同じ段丘面に立地している今回調査地の土坑群についても、新家遺跡の土墳墓と大きさや深さの傾向が似ており、土墳墓である可能性が高い。同時期の埋葬である土器棺墓ST98の存在と合わせて、開発地の東側一帯が周辺集落の墓域となっていたと推定できよう。

試掘調査結果により細井廃寺を拡大することになったものの、開発地付近については古代の寺院跡や縄文・弥生時代の遺物散布地という細井廃寺に包摂されている既知の遺跡とは異なる様相を示すことが判明した。新家遺跡と今回調査地までの間は開発がなかったため遺跡の存在は確認されていないが、同じ段丘面が続いているため、墓域の存在が想定される。今後も開発の動向を注視していく必要がある。

## 報告書抄録

ふりがな	ほせいはいじ							
書名	細井廃寺							
副書名	店舗の建設に伴う発掘調査報告書(HIT2022-1)							
シリーズ名	富田林市文化財調査報告書							
シリーズ番号	79							
編著者名	林 正樹							
編集機関	富田林市教育委員会							
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL 0721-25-1000(代)							
発行年月日	2023(令和5年)年10月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	面積(㎡)	発掘理由
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
ほせいはいじ	富田林市細井二丁目	27214	157	34°29'11"	135°35'02"	20220912 ～ 20221110	990	店舗の建設 (記録保存調査)
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
細井廃寺	寺院跡	古墳～中世		土器類、土坑、溝		土師器、須恵器		